

株式会社 日本ベル投資研究所 (ベルトーケン)

2015年7月1日

代表取締役 鈴木行生

第5期 事業報告書

1. 決算期 2015年6月期 (2014年7月～2015年6月)

2. 決算内容

- ・一定の活動領域において、そのクオリティを上げることに重心を置いた。
- ・前期並みの安定した収入と、前期をやや上回る利益を上げることができた。
- ・社会貢献活動を主軸にしているため、取締役報酬は取らない方針である。よって、取締役報酬および配当は無い。
- ・納税、寄付のほかは内部留保し、今後の活動資金として活用する。
- ・創業5年で、純資産はスタート時の4倍となった。それを活用して、企業価値創造に資する株式投資を開始したが、その評価益も期間利益に貢献した。

3. 事業内容

- ・ I R (インディペンデントリサーチ) アナリストレポートを、原則四半期ごとに19社について発行した。19社について、第1回目のレポート発行時の株価をベースに、等金額投資をしたとすると、この5年で、スタート時合計に比して、6月末で2.8倍となっている。当社のレポートは、パフォーマンスの狙って書いているわけではないが、結果としてはいい成果に結びついている。
- ・ 投資環境レポートを四半期ごとに発行し、企業の経営環境、経営行動、株式市場に関わる変化など、企業を見る目をいかに養うかについて具体的に検討した。また、米国の調査を実施した。
- ・ 英語での要請に答えて、企業レポートの英文化を一部継続的に実施した。
- ・ 事業会社の企業経営、I R活動についてアドバイスした。
- ・ 事業会社の要請により、投資家の視点から知りたい項目について質問し、理解を深めるようにした。
- ・ 投資情報ポータルサイトに投資家の啓蒙に向けたコラムを継続的に執筆した。外部依頼の原稿で、企業価値創造のあり方について意見を述べた。
- ・ 外部依頼の個人投資家向け講演会で適宜講演した。
- ・ 事業会社や官庁の依頼で社外セミナー、社内セミナーや社内研修の講師を担当した。
- ・ 資産運用会社の内部監査 (I A) について継続的にアドバイスした。

## 4. 対外活動

- ・ 独立社外取締役として、事業会社の経営発展に貢献すべく活動した。今後とも力を入れていく。
- ・ 経済産業省「経営者・投資家フォーラム」のメンバーとして、議論に参画した。
- ・ 統合レポートに関するWICI表彰に当たって、審査委員長を務めた。誠実な企業賞(インテグリティ・アワード)の審査委員を務めた。
- ・ 東日本大震災の復興支援として、「東日本大震災こども未来基金」支援義援金セミナー「未来を創る子供たちに今出来ることを」に、主催者の一員として参画した。
- ・ アナリスト協会の試験委員として、問題作成・採点などの活動を行った。

## 5. 事業成果

- ・ 当社のパートナー鈴木淳美常務執行役員との連携により、アナリストレポートを継続的に発行し、当社ブランドの認知度を一層高めることができた。
- ・ レポートの配信について、ブルームバーグ、アイフィス、みんかぶなどの有力サイトへネットワークを広げている。
- ・ 英文レポートを継続的に発行する体制を整えた。

## 6. 次期の課題と対応

- ・ 引き続きアナリストレポートの発行と配信に力を入れるが、社数については15社程度を目途とする
- ・ レポートの内容については、当該企業のビジネスモデルの解明に力を入れ、企業価値の将来予測と品質の向上に一層努める。
- ・ 企業の統合報告がより充実する視点で、投資に役立つアナリストレポートを書いていく。
- ・ 日本における個人投資家層の大幅な拡大に向けて、外部の組織と連携して、アナリストレポートの発行と啓蒙的な活動に一段と力を入れる。
- ・ 外部機関と連携して、事業会社と投資家の対話を促進するように啓蒙教育活動をサポートする。
- ・ 内部資金を活用した有価証券投資をスタートさせたが、長期投資の視点で価値創造企業へ引き続き投資していく。なお、当社が発行する企業レポートの企業に投資することは原則として行わない。もし投資する場合は、その状況を継続的に開示し、利益相反が生じないようにする。